

緊急連載 2014ブラジル W杯異聞 完

ドイツが24年ぶりの優勝を飾って幕を閉じた2014ブラジル・ワールドカップ。アルゼンチンとの決勝の舞台はリオ・デ・ジャネイロ。サンパウロから空路、リオへ。しかし、マカナスタジアム周辺で試合チケットを探してみるものの、ウン十万円もして手が届くものではない。

ブラジルに来たからには、ぜがひでも寄らねばならぬ所があるのを思い出した。東海道新幹線が開業、東京五輪が開かれた1964年、爆発的にヒットした『イパネマの娘』（アントニオ・カルロス・ジョビン作曲）。軽快なボサノバ・リズムに衝撃を受け、寝ても覚めても聴きまくっていた記憶がある。

空港から向かった先は、有名なコパカバーナ海岸の隣イパネマ海岸。高級ホテルやコンドミニウムが立ち並ぶ海岸線の一步裏側に安宿を見つけて、サッカーはテレビ観戦にしてリオ巡りに。

まずは、リオの通行手形ともいえるコルコバードの丘へ。標高709mに立つキリスト像はNHKテレビの画像でもおなじみだ。登山電車口は長い列ができて2時間近い待ち時間。しかし、その頂上は待った甲斐がある絶景。リオの街並みが雲海の下に広がっている。南アW杯の帰りに寄ったケープタウンの喜望峰と匹敵する景色である。

日暮れて、ジョビンが通ったレストラン「ガロッタ・デ・イパネマ」で腹ごしらえ。壁にかかる『イパネマの娘』の楽譜を脇目に、ジャンボなステーキと赤ワインを賞味。その後、ヴィニシウス・バーヘ。ヴィニシウスは『イパネマの娘』の作詞家名。夜9時過ぎの開演で狭い店内は客で満員。生演奏で素晴らしいボサノバ・ミュージックの数々を楽しんだ。

1ヶ月近いブラジル滞在の印象は――寒かったなあ、がまず第一。とりわけ就寝時、毛布代わりにシーツ様の布が1枚。後半は風邪っぴきでした。

今大会の日本人サポーターはざっと10000人。日本領事館の調べではトラブル件数56件。レシフェで若い2人連れがナイフで脅されて8万円を奪われるなど強盗6件。窃盗23件。パスポートの紛失などその他23件。チケットのダブ屋行為とスタジアムへの拡声器持ち込みなど4件。

2年後にはオリンピックも開催されるが、サッカーはともかく、多種目のスポーツを楽しむほど、人々に余裕はなく、運営を疑問視する声が強い。ジルマ大統領以下、利権まみれの政治家不信が最悪レベル。ジルマもかつて権力と戦った女性ゲリラ闘士の面影はなく、ただのブルジョワズ的エコノミストと悪評ふんぶん。大統領首席補佐官から大統領になった異例の出世だったが、国民の期待を裏切り、再選も危ういとされる。

2013年以降の「ブラジル抗議活動」。サンパウロでバス代を7、8円値上げする動きから大規模な全国ストに波及。ほとんど恒常的に起きており、ワールドカップ前後の一時的なものではない。

大型開発・ビッグイベントを強行する政府と、医療福祉など足元の国民生活向上を求める国民との対立は、ブラジルの不甲斐ない敗北で激化間違いなしの状況。五輪に向け、予断許すまじの状況である。 (W杯異聞・完)



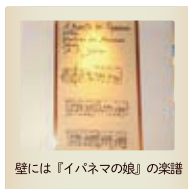
早曉のイパネマ海岸



賑わうコルコバードの丘



コルコバードの丘から見た下界



壁には『イパネマの娘』の楽譜



素晴らしいジャスカフェ